

東車塚古墳の三角縁神獣鏡ほか



ひがしくるまづかこふんのさんかくぶちしんじゅうきょうほか

文化財愛護シンボルマーク

名称	三角縁神獣鏡（石釧2点、方格T字鏡1面、獣形鏡1面）	所在地	加古川市平岡町新在家 1224-7 加古川総合文化センター博物館
別称	三角縁唐草文帯三神二獣鏡（石釧、方格T字鏡、変形七獣鏡）	所有者	加古川市教育委員会
数量	1面（石釧2点、青銅鏡2面）	指定	加古川市指定文化財
寸法	径21.4cm	指定分類	考古資料
重量	978g	指定名称	三角縁神獣鏡 附 石釧2点、方格渦文鏡1面、獣形鏡1面
材質	青銅製	指定年月日	平成2（1990）年10月11日
時代	古墳時代前期 4世紀		



三角縁神獣鏡（左上）、獣形鏡（左中）、方格T字鏡（左下）、石釧（右下）

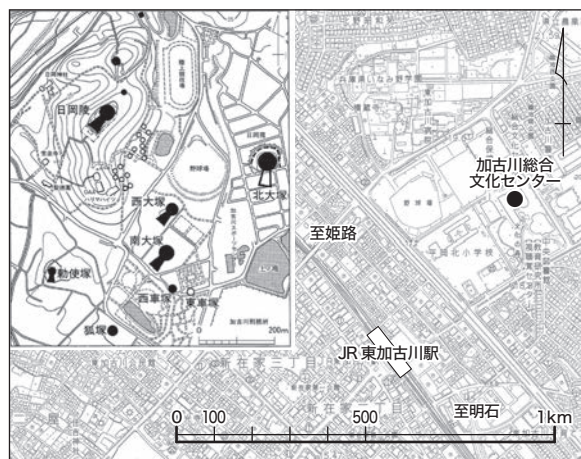
これらの考古資料は、東車塚古墳から出土した遺物です。東車塚古墳は、日岡山に所在する日岡山古墳群を構成する古墳です。現在、古墳は消滅しており、墳丘や埋葬施設などの詳細についてはほとんどわかっていませんが、昭和25(1950)年の土取り工事の際に、青銅鏡4面(このうち1面はその当時に放棄されたといわれています。)と、腕輪形石製品の一種である石釧2点が発見されました。

現存している青銅鏡は、三角縁神獸鏡(三角縁唐草文帯三神二獸鏡)、方格T字鏡、獸形鏡(変形七獸鏡)の3面です。鏡背に表現された図像や文様などから、三角縁神獸鏡は中国で製作されたもの、方格T字鏡と獸形鏡は日本で製作されたものと考えられています。

なかでも注目されるのが、古墳時代前期の古墳の副葬品として特徴的な三角縁神獸鏡です。三角縁神獸鏡には、同じ類型あるいは原型によって製作されたもの(同範鏡・同型鏡)が多く存在し、その分布状況から、ヤマト政権が地域首長に配布した貴重な器物と考えられています。東車塚古墳の三角縁神獸鏡と同範のものは、神戸市東灘区のへボソ塚古墳から出土しています。

一方の石釧は腕輪形石製品の一種で、いずれもその材質は緑色凝灰岩です。腕輪形石製品は、弥生時代の南海産の貝で作った腕輪を模して製作された古墳時代の石製品です。三角縁神獸鏡と同様に前期古墳の特徴的な副葬品で、ヤマト政権から各地の首長に配布された宝器的なものと考えられています。

これらのことから、東車塚古墳は古墳時代前期の古墳と考えられ、その被葬者はヤマト政権との密接な関係のなかで、三角縁神獸鏡や石釧といった貴重な器物を入手したと考えられます。これらの考古資料は、古墳時代における加古川下流域の様相を考えるうえでたいへん貴重なものです。



日岡山古墳群分布図及び展示場所

[各寸法及び重量]

- 三角縁神獸鏡：直径 21.4cm、重量 978 g
- 方格T字鏡：直径 9.1cm、重量 93 g
- 獸形鏡：直径 13.5cm、重量 248 g
- 石釧 1：外径 7.1cm、内径 5.9cm、高さ 1.4cm、重量 35 g
- 石釧 2：外径 7.2cm、内径 6.0cm、高さ 1.4cm、重量 34 g

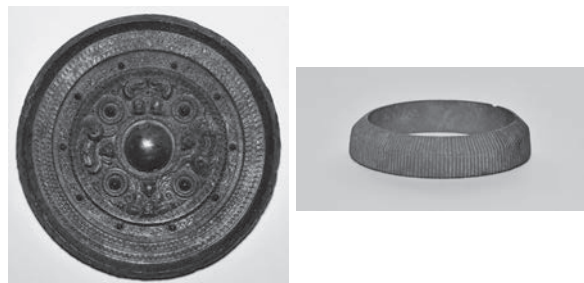
(文・写真、計測/平尾)

●参考文献

- 「日本出土の方格T字鏡」松浦有一郎(『東京国立博物館紀要』第29号、東京国立博物館、1994年)
- 「東車塚古墳」西谷眞治(『加古川市史』第四卷史料編I、加古川市、1996年)
- 『考古資料大観』第5巻 車崎正彦編 小学館(2002年)
- 『副葬品の型式と編年』古墳時代の考古学4 一瀬和夫ほか編 同成社(2013年)

●キーワード

- 古墳、日岡山古墳群、東車塚古墳、青銅鏡、三角縁神獸鏡、三角縁唐草文帯三神二獸鏡、方格T字鏡、獸形鏡、変形七獸鏡、腕輪形石製品、石釧、同範鏡、同型鏡、へボソ塚古墳



三角縁神獸鏡(左)、石釧(右)

- 出土地/加古川市加古川町大野 1677 付近
- 所在地/加古川市平岡町新在家 1224-7 (保管場所) 加古川総合文化センター博物館
- 交通/ JR 神戸線「東加古川」駅から北へ徒歩 10 分車は加古川バイパス「加古川東ランプ」から北東へ 1km